

平成 25 年度第 1 回地方独立行政法人明石市立市民病院評価委員会 議事要旨

日時 平成 25 年 7 月 5 日(金)14 時 00 分から 16 時 00 分

場所 明石市立市民病院本館 2 階講義室

出席者(委員) 明石純委員長

日下孝明副委員長

橘和良委員

野並葉子委員

会議次第 1. 開会

2. 議事

(1) 平成 24 年度 事業年度に係る業務実績報告書の説明について
地方独立行政法人明石市立市民病院 平成 24 事業年度に係る業務実績
報告書 (法人の自己評価)

(2) 平成 24 年度 財務諸表等の説明について
地方独立行政法人明石市立市民病院 平成 24 年度財務諸表等

(3) 今後の業務実績評価について

3. その他

4. 閉会

<資料>

資料 1…地方独立行政法人明石市立市民病院 平成 24 年度に係る業務実績報告書

資料 2…地方独立行政法人明石市立市民病院 平成 24 年度財務諸表、決算報告書

資料 3…平成 24 年度事業報告書

資料 4…監査報告書

資料 5…平成 24 年度の業務実績評価にかかるスケジュール

参考資料…地方独立行政法人明石市立市民病院の業務の実績に関する評価の方針

説明資料…明石市立市民病院の活動状況について

1. 開会 開会の宣言

2. 議事

- (1) 平成 24 年度 事業年度に係る業務実績報告書の説明について
 地方独立行政法人明石市立市民病院 平成 24 事業年度に係る業務実績報告書（法人の自己評価）
- (2) 平成 24 年度 財務諸表等の説明について
 地方独立行政法人明石市立市民病院 平成 24 年度財務諸表等
- (3) 今後の業務実績評価について

法人事務局	「2. 議事(1) 平成 24 年度 事業年度に係る業務実績報告書の説明について」は資料 1 やパワーポイントで説明。 「2. 議事(2) 平成 24 年度 財務諸表等の説明について」は資料 2 にて説明。
委員長	業務実績報告書は内容が多彩なので、まず財務諸表の方から質問、確認はないか。 収支は 3 億 9 千万の黒字という形で、かなり回復し、計画を上回る状況である。ただし、キャッシュ・フローの方はわずかにマイナス。業績が上がったのが下半期から、2 月 3 月分の診療報酬がまだ入っていない段階で、その分がマイナスと考えればよいのか。
法人事務局	4 月は 2 月末がまだ入っていないが、キャッシュ・フロー上は前年度の 2 月 3 月分が入っている。
委員長	平成 24 年度の 2 月 3 月の診療収益が前年度の 2 月 3 月よりも増えている。その分が新年度の 4 月 5 月に入金になり、当年度のキャッシュ・フローは年間でマイナスになるということだと思う。
委員	業務実績報告書の 31 ページの財務内容に関する事項で、収支の改善に関するところで、平成 24 年度の最終的な査定率が 0.13%で、前年度が 0.09%ということから、努力はされたが査定率は実質的には下がらなかったという解釈でよいか。
法人事務局	そうである。
委員	再審査請求をされると思うが、バック率ほどの程度か。
法人事務局	率までは今手許にないので、数字はまた次回提出する。
委員長	要するに、再審査請求を行い最終入金があるが、0.13%というのは当初の請求額との差額のことか。
法人事務局	これは 1 次審査だけの査定率であり、2 次審査まで含めると率はもう少し上がる。

委員長	この部分はこれから大事なところになると思う。 他に何か。
委員	28 ページについて、理事会は当然議事録が作成されると思うが、連絡会議についても議事録は作成されているのか。
法人事務局	理事連絡会議についても議事録を作成している。
委員	その下の項目について、部門責任者の運営会議や管理職の管理会議についても同様に書面を作成しているのか。
法人事務局	運営会議及び管理会議についても作成している。
委員	23 ページの看護職の奨学金制度について、8 名が利用しているということだが、具体的にはどこの学校か。
法人事務局	看護奨学金については、明石の准看護学校を卒業し専門学校に進学した学生が 8 名の内 2 名、九州宮崎県の日南学園の在校生、あとは明石市内から県内の学校へ修学されている学生に貸付を行っている。
委員	具体的な応募はどのような形で受け付けているか。
法人事務局	基本的には公募と指定校制を採っている。
委員	32 ページの材料費対医業収益比率だが、平成 27 年度の最終目標は変えられるのか。材料費対医業収益比率については、実績と目標値との対応がよく分からない。
法人事務局	現時点では中期計画の目標値はそのままスライドさせて、ここに掲載している。年度計画では年度計画でその都度変更している。
委員	平成 25 年度の計画値は 22.7%となっているが、それでも今期より計画では上がるということだが、どういう材料について、値上がりがあるって、または高価な材料を使用することを計画されているのか。
法人事務局	平成 24 年度の診療報酬改訂で薬価はかなり下げられている。この改訂が挟まったことで、目標値は、現実的には乖離したところがあると思う。
委員	診療の体系が整って循環器の患者が増え、救急が増えると材料費が高くなってくると思うので、そのところは経費との兼ね合いとなるので、多少変わってもよいと考える。
委員長	中期計画の時から課題で、そもそも明石市民病院では材料費率が低く一方、経費が少し高い。他の病院では材料費に計上しているものが、こちらでは経費に計上しているかもしれないので、細かく分析する必要があると思う。妥当性があれば、中間でも目標数値を下げる必要があると考える。材料費比率と経費比率の両方を足して全

	体として下がっていくことが重要である。
委員	32 ページの病床利用率ですが、この病床利用率は病床数を何床で出されているのか。
法人事務局	病床利用率は許可病床数である 398 床に対しての率になる。実際に稼働させているのは 294 床で、利用率の場合は許可病床で計算している。
委員	そうすると今の稼働している病床が 100%動いたとしても 70 数パーセントということである。平成 27 年度の目標を 80%としているということは、今閉じているところを開いていくという発想か。
法人事務局	地域全体での急性期患者の動向をしっかりと分析しながら、当院の体制を慎重に判断していくことが求められると思う。
委員	救急や外来が増えているという状況の中で、病床利用率が 5%低いということは、収入に大きな影響があると思うが、目標値まで実績を上げる手立てについてはどのように考えているか。
法人事務局	当院の場合は許可病床が 398 床に対し、稼働が 294 床ということで、これに合わせて 7:1 看護を実施している。急性期のニーズが高まったために救急車の搬入台数も月平均が 200 台になり、急性期患者の入院が増え、回復期リハの病床を一般病床に転用するという手続をとっている。そういう状況下で運用しており、看護師の数が増えれば 294 床をベースに一般的な病院としていくことが可能と考えるが、今はその過渡期になっている。
委員長	このあたり少し分かりづらいので、32 ページに稼働病床数に対する利用率も記載した方が分かりやすいと思う。
法人事務局	5,6 年前では平均在日数が 17~18 日で、現在は 11 日である。つまり、同数の入院患者を扱っていても、仮にベッドが 100 床無くなっても 5,6 年前と二アリーイコールである。休床している 100 床をこの 5 年間の中期計画の中で、急性期の病床として増やしていくということは、おそらく地域のニーズから言えばあまりそういう状態にはならないと考える。次の中期計画を検討する平成 26~27 年の間に、この 100 床をどのように位置付けていくかを検討する。
委員長	現時点では 100%で 294 床ですので、7:1 で考えると 250 床くらいまでは年間平均で確保できるということか。医師と看護師の確保がキーになると思う。
委員	材料費については、先ほどの説明のとおりだと思うが、人件費の医療収益に対する比率については記載がない。一番金額が大きいところであるが、記載はしないのか。

委員長	確かにそうである。
委員	今後、医師を確保していくのであれば、さらに比率は上がってくると思う。人件費対医業収益比率の数字は分かるか。
法人事務局	平成 24 年度の実績においては 51.7%である。
委員	過去からの実績推移と今後の計画の数値も欲しい。今でなくてもよいので、よろしく願います。
法人事務局	後日資料を提出する。
委員長	今の 51.7%というのは、医業収益の中に運営費負担金も入っている。それであれば、負担金を除いた収益に対する率も必要かと考える。
委員	他の病院も負担金を除いて出している。
法人事務局	負担金を除いた場合では、64%となっている。
委員	病院まつりを開催され、たくさんの方々が来場し、地域の方が病院に対して関心をもたれたということで、とてもよい取り組みである。その病院まつりの際に、何か地域の人たちから病院に対するニーズ、要望はあったか。
法人事務局	地域の方には健康に関心を持っていただきたい、地域の方との交流を図っていきたいという思いがあり、「病院まつり」を初めて開催した。思った以上の来場者があり、またアンケートも実施した。具体的なニーズはなかったが、「暗いイメージがなくなった」、「今後も積極的に急性期患者を受け入れるということで安心した」などのコメントをもらっている。
委員	こちらの病院は循環器に力を入れられているので、高齢者が興味を示し来場したかもしれない。
法人事務局	先生方の健康相談にもたくさんの方が興味を持たれたほか、血管年齢等検査は希望者が多く、受け入れられなかった方もいたので、今後は予約等の対応も検討しなければいけないという反省もあった。
委員長	その他、評価 4~5 の部分でコメントはないか。
委員	看護師の数が少ない中で、看護師の負担が目立っている。看護師の募集について、将来計画を考えていかないといけないと思うが、いかがか。
法人事務局	学校訪問等は何年も実施している。当院は比較的退職者が少ないので、現在の採用でも足りているが、今後、閉鎖病棟を開けるとなると足りなくなる。そうすると、今と同じではいけないので、看護師採用は、病院全体として取り組もうと 2 年前から認識し、平成 24 年度からプロジェクトを立ち上げて対応している。採用チームと内

	部環境チームを作り、院長直結のプロジェクトとして、事務局スタッフも巻き込んでいる。
委員	看護学校の動向を見ていると、学生が入学した時点で奨学金及び就職先が決まっている傾向がある。入学してからしばらく経ってからでは遅く、早めのアクションが必要であると考え。
法人事務局	病院職員の半分以上は看護師で、看護師の人件費が大きく影響する。看護師の平均年齢によって人件費は大きく変わってくる。医療センターは、最初数年かけて看護学校を作り、卒業生のほとんどを就職させて平均年齢を下げている。明石の准看護学校で育成した看護師を当院で採用していくことが重要と考えている。今すぐにはできないが、手前で育てた人を手前の病院で雇って、病院の診療体制の確立に寄与するというのは大変やりがいのある状況だと考えている。
委員長	7:1 の看護必要度は達成しているのか。
法人事務局	クリアしている。低い時には 15%程度、高い時には 20%くらいなので、コンスタントに達成している訳ではないが、高い時には達成している。
委員	人はつながりが大事なので、看護師自身に、職を探している看護学校時代の同期等に声をかけてもらうといった取り組みが必要なのではないか。学校訪問やセミナーを実施しても、なかなか人が集まらない。
法人事務局	インターンシップにはたくさんの参加者がある。実際インターンシップに来て、当院は働きやすいということを実感し、実際に採用した方もいる。
委員長	11 ページの救急のところは 5 点を付けられているが、これは自信を持って付けられた 5 点ということでしょうか。
法人事務局	地域のニーズに合わせた総合病院にしていくためには、救急は核であると認識し、計画をしている。当初 21～22 年度では 1,055 台くらいの救急車搬入があったが、救急専門医を雇用し、搬入台数を増加させている。こういった取り組みは評価に値すると考えているが、現在は ICU までフル稼働して使える状況になる前段階というところである。
委員長	次に、26～27 ページの人事制度のところ、記載がないところの計画や実績はどうなっているのか。
法人事務局	人事評価制度の人事の取り組みで、当院の独法化以降の際に条件として公務員の人事制度を引き継いだという経緯がある。法人化後、3 年目になり、人事・給与制度をどう構築していくかという課題を組

	<p>合とも相談していく必要があると思っている。法人採用の職員も半数おり、教育や研修体系についても従前と同じことを行うのではなく、新たな体系を構築していく必要があると認識している。平成 25 年度には全体の方向付けを行っていききたい。</p>
委員長	<p>是非、来年度の業務実績報告書には成果として記載できるようにしていただきたい。</p> <p>33 ページの管理体制のところ、DPC 分析や診療科別の原価計算等の分析を積極的にされていることは、非常に良い事であるが、管理運営のシステムとして、事務職員にノウハウを蓄積していかないといけないという面もある。</p>
法人事務局	<p>現状では管理本部の経営企画課が対象となっている。一方、医事課の診療情報管理士が従前のカルテや診療情報の管理だけではなく、そこから見えてくる病院の実態をどのように病院経営に活かすのか、日々のデータを見ている人間と経営を見ている者が連携を取ろうとしている。実際のデータを使いながら、あるいは他病院のベンチマークを取り参考にし、我々の病院と同等の病院がどのような取り組みをしているかということ、しっかり見えるようにしていきたい。</p>
委員長	<p>ノウハウを蓄積していく部署については、例えば DPC データ分析なら医事課、原価計算なら経理課、全体を総合するのは経営企画課ということだが、どこかにノウハウを蓄積していかなければいけないと思う。</p>
法人事務局	<p>今、委員長が言われたような部署に法人採用の職員を複数採用している。そこで、市又は法人採用の係長をチームリーダーとして位置付け、分析を行っている。</p>
委員長	<p>1 人のプロパー職員に蓄積していくというだけではなく、派遣等の職員にもマニュアルや規程等によりノウハウを蓄積することができるので、そのあたりも含めて検討していただきたい。</p> <p>他に何か、市の職員の方から報告はあるのか。</p>
市事務局	<p>今後の評価のスケジュールは、資料 5 に記載しているので、確認していただければと考えている。</p> <p>連絡事項として、本日の評価委員会を踏まえて、各評価委員の方々に個別小項目評価や意見等を 7 月 10 日までにメールで事務局まで提出いただきたい。よろしく願います。</p> <p>次回は 7 月 24 日の水曜日に同じ 2 階の講義室にて午前 10 時より行うので、よろしく願います。</p>

4. 閉会	閉会のあいさつ
-------	---------